

今号の内容

- 老年症候群 予防は出来るの？
- 特発性正常圧水頭症について
- 失語症について
- 感染管理勉強会
- 新入職員を迎えました
- 退任の挨拶 ■ 新任医師紹介
- 認定医療社会福祉士 認定審査に合格いたしました
- 学術活動

夏号の花
蓮の花

写真提供:広島県

当院では病院の1Fフロアで「FON」の無料インターネット接続サービスが利用できます。ご希望の方は医事課までお問い合わせください。

老年症候群 予防は出来るの？

介護老人保健施設ひばり 施設長 梶川成子

老年の体力低下、機能低下によるさまざまな健康障害を老年症候群と呼ぶことが多くなりました。医療者にとってはなかなか便利な言葉です。老年の健康には個人差はありますが、後期高齢者の身体機能は一般に衰退して虚弱（フレイル）となり、複数の疾病、症状を持つようになります。一つ病むと、連鎖的に次々に疾病が重なることが多く、風が吹けば桶屋が儲かる式の思いがけない症状が出て、元をたどれば一元的な原因ということも多いのです。これを仮に「風桶反応」といしましょう。転倒骨折一つをとっても、青年のバイク事故とは違って、さまざまな要因が重なっています。目が見えにくい→外出しなくなる→筋力が落ちる→夜は眠れない→夜間頻尿→トイレで転ぶ、といった過程もあるでしょう。これらはみな老年による色々な身体機能の低下、昔の言葉で言えば、五感五臓六腑の老化衰退が関与していると考えられます。これを元に戻す方法はないのでしょうか。iPS細胞や、あるかも知れないSTAP細胞という夢はまだまだ先のこととして、たとえば白内障の手術で視力回復→嬉しくな→て外出の頻度が増える→足腰の力が復活して活動的になり→認知症も改善、夜もよく眠れて薬も減る、といった「逆風桶反応」があれば、老年症候群も改善してくる可能性もありますね。なにかきっかけを作って、予防・改善の道を歩みたい、と思いませんか。お勧めはてっとり早く、歩行・散歩です。つまずかないように注意しましょう。地域の健康増進グループの活動に継続して参加するのも効果的だそうです。さっそく始めましょう。



特発性正常圧水頭症について

脳神経外科医長 石井洋介

認知症の患者さんは現在全国で 250 万人近くに達しています。
そのうち 5%程度が特発性正常圧水頭症によるものと言われています。

特発性正常圧水頭症（iNPH）とは？

人の脳や脊髄は柔らかく傷つきやすいため、固い骨に包まれています。脳はちょうど豆腐のような硬さで、頭蓋骨という固い器に水を張って浮かべられたような状態で存在しています。器の中の水のことを脳脊髄液（髄液）と呼んでいます。水頭症はこの髄液が頭蓋内腔に過剰に貯留した状態を言います。

髄液は脳の中で産生され、脳や脊髄の周りを回って最終的に脳の表面から吸収される仕組みになっています。この髄液循環システムに異常が起こると髄液が過剰に貯留し水頭症を発症します。異常の原因として、クモ膜下出血や感染などにより髄液の吸収が障害されることや、脳腫瘍や血腫などにより髄液の通り道が塞がれてしまうといったことが挙げられます。この様に原因のはっきりした水頭症を続発性水頭症と言います。一方ではっきりした原因がないのに水頭症を起こす事があり、これを特発性正常圧水頭症と言います。

症 状

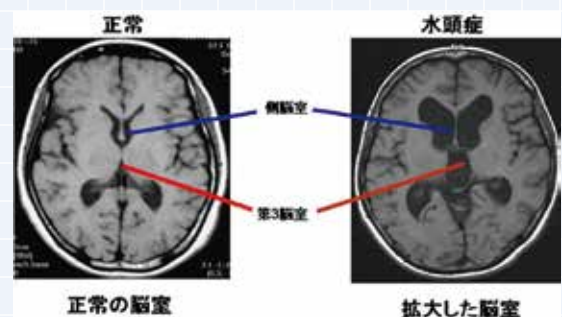
認知障害、歩行障害、尿失禁が3大症状です。歩行障害が最初に現れることが多く、他の認知症と見分けるためにも重要な症状です。歩幅が狭くなり摺り足になったり、歩行が遅くなったりします。進行すると立ち上がる事も困難になります。認知障害は物忘れに始まり、次第に自発性が低下しぼんやりとして物事への関心を失ってしまいます。尿失禁は 3 つの症状のうち最も遅く現れるとされます。



(難病センターHPより)

診 断

CT や MRI などの画像検査に加えて、腰に針を刺して髄液を 30ml 程度抜いてみる試験（髄液タップテスト）を行います。髄液タップテストにより症状の改善がみられた場合は手術によって症状が改善する可能性が高いと判断し、手術が奨められます。



(B.Braun社HPより)

治 療

頭蓋内に過剰に貯まった髄液を身体他の部分に流す手術（シャント術）によって治療します。いくつか方法がありますが、最も一般的な手術は脳室-腹腔シャント術です。頭蓋骨に小さな穴をあけて脳室から腹腔まで細い管（カテーテル）を通します。これによって頭蓋内の余分な髄液が腹腔内に流れていくことになります。また流れる髄液量を調節するための装置を頭皮の下においておきます。

手術を行う事により 6～8割の患者さんに3大症状の改善がみられています。

失語症について

言語聴覚士 對尾福美

失語症とは、『聴く』『話す』『読む』『書く』という、ことばに関することが難しくなった状態を言います。言いたいことが上手く伝えられない、相手の言っていることが分からないという点では、ことばの分からない外国にいるのと、少し似ているかもしれません。

言語療法では、失語症の方とリハビリを行い、必要に応じては、失語症の方とご家族が上手くコミュニケーションを図れるように支援していきます。

☆失語症の方と接するときの注意点☆

伝えるとき	聴くとき
・ 分かりやすいことばで、ゆっくり話す ・ 意図が伝わっているか確認する ・ 文字や絵、実物、身振りを使う ・ 「はい」「いいえ」で答えられる質問をする	・ ゆったりとした気持ちで接し、先回りして言わない ・ 言い間違いにこだわらず、聞き手が推測する

(例)

りんごとぶどう持って来たよ。どっか食べる?

りんご食べる?

ぶどう食べる?

いらない

うん

今日『弟』が来てね…

今日『妹さん』が来てたな

「妹さん」?

そうそう

感染管理勉強会

感染対策委員 検査部主任 平田明子

平成 26 年 6 月 6 日、全職員を対象に、今年度第 1 回感染管理勉強会を行いました。
診療報酬の【院内感染防止対策の基準】において、「職員等に対し流水による手洗いの励行を徹底させるとともに、各病室において水道又は速乾式手洗い液等の消毒液が設置されている。」とあります。

ハクゾウメディカル(株)の小寺先生にお願いし、手指衛生の実際と防護具の重要性について学びました。

また、感染対策委員会の看護師メンバーにも協力していただき、アルコール速乾式手指消毒剤の使用量を毎月調査しています。これをもとに、入院されている患者さん 1 人あたりのアルコール速乾式手指消毒剤使用回数を算出します。この使用回数と新規耐性菌発生状況を比較し、使用回数が低いほど新規耐性菌の発生が高くなる現状を報告しました。この勉強会で、職員みなさんに手指衛生の重要性を再認識してもらいました。





新入職員を迎えました



平成 26 年 4 月 16 日（水）、オリエンタルホテル 広島にて新入職員歓迎会を開催いたしました。若林 理事長の挨拶に続き、平成 28 年度完成予定である新病院について、プレゼンテーションが行われました。

今年度は、医療法人翠清会に 35 名が入職いたしました。新たな仲間を迎え、職員一丸となって頑張りたいと思います。



翠清会梶川病院(30名)	
脳神経外科医	1名
脳神経内科医	2名
薬剤師	2名
看護師	9名
准看護師	3名
看護助手	1名
理学療法士	5名
作業療法士	1名
言語聴覚士	1名
診療放射線技師	2名
医局秘書	2名
受付事務	1名
介護老人保健施設ひばり(5名)	
看護師	1名
介護福祉士	4名



退任の挨拶



平成 26 年 6 月末日をもって退職することになりました。主に外来診療、入院診療、脳ドック業務などに従事しましたが、外来や入院の患者の方々へ接していると、本院に対する極めて大きな期待と確固たる信頼感を感じることができました。1 年間という短い期間でしたが、医局の先生方をはじめとして多くの部門の皆様には大変お世話になりました。今後、益々の翠清会梶川病院のご発展を祈念しております。



副院長 脳神経内科 片岡敏



新任医師紹介



5 月から脳神経外科医として勤務しております。医師になったばかりの頃の数年間、医師としての基礎を学び育てていただいたここ広島に約 17 年ぶりに戻ってこられたこと、またここで医療に携われることを大変うれしく思っています。まだまだ力不足で至らぬところはあるとは思いますが、皆様の健康に少しでも役立つことができよう、優しく接していければと考えております。よろしくお願いいたします。



脳神経外科部長 相原寛



認定医療社会福祉士 認定審査に合格いたしました。医療福祉相談部主任 長谷智子

4月～6月

学術活動

【学会発表・講演】

4/5 第77回 日本脳神経外科学会中国四国支部会学術集会
「テンポラリークリップにより内頸動脈閉塞をきたした内頸動脈破裂動脈瘤の一例」

脳神経外科医長 石井洋介

5/24 第55回日本神経学会学術大会
「非弁膜症性心房細動を有する急性期脳梗塞患者と腎機能障害との関連」

脳神経内科部長 今村栄次

【論著】

脳卒中学会誌(36巻 3号 P191～P196掲載)

「くも膜下出血を伴わない急性硬膜下血腫で発症した内頸動脈一後交通動脈分岐部破裂脳動脈瘤の1例」
副院長・脳神経外科部長 須山嘉雄

6/19 Brain Diabetes Joint Meeting

「認知症の簡便なスクリーニングと脳神経内科への紹介のタイミング」

脳神経内科医長 中森正博

6/28 第96回日本神経学会中国・四国地方会

「短期間に脳静脈血栓症と若年性脳梗塞の発症をみとめたプロテイン S 欠損症の一家系例」

脳神経内科 石川賢一



医療法人 翠清会

翠清会梶川病院

TEL:082-249-6411 FAX:082-244-7190

〒730-0046 広島市中区昭和町8-20

<http://www.suiseikai.jp>

《病院理念》

Patient First 「患者さん第一」

ファースト・オピニオン(First Opinion)を提示でき、

セカンド・オピニオン(Second Opinion)を求められる病院に！

《基本方針》

- 1 脳の専門病院として 24 時間、常に質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの権利を尊重します。
- 3 患者さんの安全と安心を確保し、医療事故の予防と対策に努めます。
- 4 急性期から慢性期、在宅までの地域の関連機関と連携を強化します。
- 5 翠清会の職員である誇りを持ち、プロとしての実力を高め、チーム医療に貢献します。

